

特 集 No. 2

柳ヶ瀬地区における コモンズ形成のために ～（仮称）Gテラスの挑戦～

浅野泰樹・山崎崇



全天候型広場「（仮称）Gテラス」

二〇二三年春「（仮称）Gテラス」が誕生
岐阜市・柳ヶ瀬地区では、高島屋南
地区第一種市街地再開発事業により、

高島屋南市街地再開発組合（以下「組
合」）が三十五階建て複合高層再開発
ビル「柳ヶ瀬グラッスル35」を建設中
で、二〇二三年春に開業を迎える予定
である。

岐阜県下最大規模となる三三五戸
の分譲住宅の他、一階から四階に柳ヶ
瀬地区に新たな魅力を創出する商業
施設や岐阜市が整備する公益的施設
（健康・運動施設、子育て支援施設）、
北隣に位置する岐阜高島屋と繁華な
劇場通りに面した北東角に柳ヶ瀬地
区最大となる全天候型広場（約五百㎡）
「（仮称）Gテラス」（以下「Gテラス」）
が誕生する。

Gテラスの意義

Gテラスは、建物の区分所有等に關
する法律第十一条に規定される住宅
を含む全区分所有者の共有に属する
共用部分として、区分所有者が管理し、
利用できる広場空間である。

組合は、柳ヶ瀬が商業活動の場であ
ることに加え、人々が日常的に生き生
きと活動できる中心市街地であつて
欲しいという理念のもと、Gテラスを
区分所有者や占有者のためだけの施
設ではなく、市民等に活動の場を提供
し、他の商店街組織・岐阜高島屋等の
商業施設や市民・企業との連携を図り、

点から線・面へと活動の場を広げてい
くための先導的・拠点施設と位置づけ
ている。

テラス活用委員会での検討

組合では、二〇二〇年に検討組織を
立ち上げ、多様な人々が集い、出会い、
つながるオープンスペースとして、賑
わい創出の場、居心地のよい交流の場
情報発信の場等とすることをGテラ
スの目標に掲げた。

二〇二一年度からは、具体的な運用
や運営組織を検討するため、商業施設
経営者、音楽家、まちづくり組織運営
者、金融機関担当者等で構成するテラ
ス活用委員会を新たに立ち上げ、目標
の実現化を目指して動き始めた。

Gテラスの活用について①市民や
市民団体等に幅広く貸出し、活用して
もらう市民交流イベント、②各施設・
団体で行われるイベントのサテライ
トとして活用してもらう連携イベン
ト、③民間企業・団体が商品の販売や
PR活動に利用できる収益イベント、
④区分所有者等が利用する自主企画
イベントに区分し、その可能性と課題
を検討している。

連携イベントとしては、「柳ヶ瀬グ
ラッスル35」と同時竣工予定で現在
整備が進む南隣の「金公園」でのイベ
ントや柳ヶ瀬商店街が多くの人で賑
わう「サンデービルディングマーケット」
との連携等が想定されている。



柳ヶ瀬グラッスル 35 南隣の金公園（岐阜市資料）

こうした連携イベントが継続化す
ることにより、柳ヶ瀬地区全体の活
性化につながるものと期待される。

持続可能な管理・運営

Gテラスが多くの人々から支持を
得て、柳ヶ瀬地区のコモンズとなるに
は、市民交流イベントや連携イベン
ト等を契機に「柳ヶ瀬グラッスル35」の
区分所有者が市民や企業とのネット
ワークを広め、管理運営に市民、企業
が関われる体制を整えることがまず
必要である。そして、Gテラスの運営
に必要な費用等を収益イベントによ
り企業等が得る収益の一部を還元す
ることで賄い、それをさらに市民交
流・連携イベントの拡充に充てるとい
う、持続可能な好循環を確立できるか
どうかにかかっている。